

平成 20・21 年度

川崎市立図書館協議会研究活動報告書

－川崎としての特色のある図書館のあり方について－

平成 22 年(2010 年)5 月

川 崎 市 立 図 書 館 協 議 会

平成 22 年 5 月 31 日

川崎市立図書館長様

川崎市立図書館協議会
会 長 平野英俊
副会長 関 昭三

平成 20・21 年度川崎市立図書館協議会研究活動報告について

川崎市立図書館協議会委員は、平成 20 年 10 月 1 日付けで当協議会に示されました諮問事項「川崎としての特色のある図書館のあり方について」をテーマに研究協議を重ねてまいりましたが、ここに答申としてまとまりましたのでご報告いたします。

本報告書が今後の行政施策に活かされることを期待いたします。

委員構成（*は編集委員）

*平野英俊（会長）、*関昭三（副会長）、齋藤多美子、
高野茂（平成 21 年 6 月 1 日から）、古屋隆（平成 21 年 5 月 31 日まで）、
水品美香、松木智代、伊藤良久、水谷宏、*佐藤凉子、長島保

川崎としての特色のある図書館のあり方について

～平成 20・21 年度川崎市立図書館協議会研究活動報告書～

目 次

I はじめに

- (1) 今期の諮問に答えるための基本的な考え方 1
- (2) 川崎としての特色ある図書館とは 2

II 川崎の地域資料(かわさき資料)に関わる特色あるサービス

- (1) 公立図書館と地域資料 3
- (2) 特色ある図書館を実現するための前提としての川崎らしさの理解
－ 川崎の変貌の歴史と地域特色の把握 － 3
- (3) かわさき資料に関わる特色ある図書館サービスをすすめるために
..... 4
- (4) 川崎資料の収集、作成による充実したコレクションの形成 5
- (5) 二次資料の作成等による積極的な資料情報の提供・発信と
資料利用の促進 7
- (6) 市所管の専門資料情報機関と連携し、資料データの共有を図る。
また、その他の機関とも連携を進める 9

III 地域資料関連以外での特色あるサービス

- (1) 地域資料以外のコレクションと関連活動とで特色を出す ... 10
- (2) 市民生活に関わる様々な社会的問題へのすばやい対応で特色を出す
..... 11

(3) 様々な学習・交流活動の企画で特色を出す	12
(4) 特色ある児童サービスをめざす	12
IV おわりに	15
V 参考資料	
(1) 川崎市立図書館資料収集要綱	16
(2) 川崎ゆかりの人物リスト（川崎区誌研究会提供）	18
(3) 川崎市立図書館が作成した地域資料関係の目録等一覧	20
(4) 川崎市立図書館と児童サービスの取り組み・協働の現状	25

[巻末資料]

(1) 諮問事項「川崎としての特色のある図書館のあり方について」 （平成20年10月1日付）	26
(2) 平成20・21年度審議経過	27
(3) 平成20・21年度川崎市立図書館協議会委員名簿	28

Ⅰ はじめに

(1) 今期の諮問に答えるための基本的な考え方

本図書館協議会に示された今期の諮問は「川崎としての特色のある図書館のあり方について」というものであった。諮問書にも記されているように、この件に関して川崎市立図書館がどのような施策と活動を行うべきかについて、『川崎再生フロンティアプラン』¹における「まちづくりの基本方向」(*)や『かわさき教育プラン』²でとられている重点施策(**)などを考慮に入れつつ、本協議会の意見を求めるものであった。

*協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる。川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する。自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる。

**「共に生き、共に育つ環境を創り、心を育む」「共に学び、楽しみ、活動する生涯学習社会を創る」

ところで、前期すなわち平成 18・19 年度の本図書館協議会では、「川崎市立図書館の運営理念および活動目標について」という諮問に答えて、7 項目の運営理念と理念ごとの活動目標、さらには活動目標ごとに考えられる活動例を提言している。そこで提言された運営理念のひとつが「川崎としての特色ある図書館」であった。前期の図書館協議会報告書³では、「川崎市に関連する資料・情報の収集と提供、関連機関との連携ならびにデータの共有などを主眼とした川崎らしさを発信する図書館サービスを実現する」として、「川崎としての特色ある図書館」を実現するための活動目標 5 項目(***)と具体的な活動例が示されている。

- *** (1) 川崎市に関する地域・郷土資料、行政資料（川崎資料）の専門的図書館
(2) 市所管の専門的資料・情報をもつ機関と連携し資料・情報の共有を図る
(3) 行政各部署の業務と議員活動への資料・情報援助
(4) 市内大学図書館との連携
(5) 市内企業との連携

今期の図書館協議会として、前期の報告書をあらためて精査してみると、「川崎としての特色ある図書館」というテーマに関しては、活動目標と考えられる活動例を検討する過程で、すでにキーワードは出尽くしているとの意見も出された。しかしながら、そこで示された活動目標と活動例については、前期の協議会では十分な検討ができなかったことも事実である。特に活動例については、時間の制約の中で、とりあえずの例示を試みたものであった。

そのため、今期の図書館協議会では、この活動目標と活動例も再検討しつつ、「川崎としての特色のある図書館」を実現するための具体的なアクションプランの提言を目指すこととした。その際、諮問書にもあるように、“かわさき都民”ともいわれる市民が多い中で、市民に川崎に関心をもってもらえるようにするとともに、市民生活に役立つサー

¹ 『川崎再生フロンティアプラン』川崎市、平成 17 年 3 月策定、<http://www.city.kawasaki.jp/20/20kityo/home/sougoukeikaku/index.html>

² 『かわさき教育プラン第 2 期実行計画』川崎市教委、平成 20 年 4 月策定、<http://www.city.kawasaki.jp/88/88kikaku/home/plan/planindex.htm>

³ 『平成 18・19 年度川崎市立図書館協議会研究活動報告書』川崎市立図書館協議会、平成 20 年 5 月
http://www.library.city.kawasaki.jp/pdf/regulations/06katudouhoukoku_h18_19.pdf

ビスを提供していくためには、地域に根ざす図書館として何ができるのかという視点が、提言の縦糸として入っていることが必要であることを確認した。自治体が運営する図書館としては、特別な人だけが利用する図書館ではなく、多くの市民が、図書館を通して様々な“出会い”ができるような存在にならなければならない。その意味で、提言では、図書館を拠点にした、市民との“協働”という観点を重視する必要があると考えた。

（２）川崎としての特色ある図書館とは

今期図書館協議会では、「川崎としての特色ある図書館」を考えていく上で、大きく二つの観点から検討を進めることとした。その一つは、川崎という地域に関する様々な資料・情報を使って特色を出すという観点である。地域に根差す公立図書館が他市とは違う特色をアピールする上で、いわゆる郷土資料や地方行政資料などの地域関連資料に取り組むことは、自然の成り行きであり、また当然取り組まなければならない課題でもある。しかし、一方で、特に地域資料に関わるわけではない「特色ある図書館」を考えることもできる。すなわち、他都市では見られないような、運営・サービス面における特色を出すという二つ目の観点である。

以下、本報告書では、次章のⅡで、「川崎の地域資料（かわさき資料）に関わる特色あるサービス」について、次々章のⅢで、「地域資料関連以外での特色あるサービス」について、協議会での討議の結果を、答申としてまとめることとした。

II 川崎の地域資料(かわさき資料)に関わる特色あるサービス

(1) 公立図書館と地域資料

「図書館法」第3条は、「(図書館は、)郷土資料、地方行政資料……(中略)……の収集にも十分留意して、……(中略)……「図書館資料」を収集し、一般公衆の利用に供すること」と規定しているが、地方自治体によって設置された公立図書館が、その地域の郷土資料、地方行政資料を収集することは必須の業務である。それは、先ず以て、他の図書館資料に比べて、地域の郷土資料、地方行政資料が、他の自治体の図書館では収集が困難なためである。加えて、地域資料の収集と活用を通して、市民が地域の歴史と現在に関心をもてるようにサポートするとともに、生きて生活を営む上で満足できる地域の創出に、図書館として貢献することを目指すためでもある。

地方自治体がそれぞれの特色を見出し、全国に発信することが盛んになるとともに、市町村立図書館も各種のサービス面で独自の活動を展開する動きが増している。川崎市立図書館も、「川崎市立図書館資料収集要綱」(参考資料1参照)の中に「地域・行政資料」の一項を設けているが、従来からのサービスをよりいっそう充実させながら、川崎らしいサービスを多様な形で行う必要に迫られている。

(2) 特色ある図書館を実現するための前提としての川崎らしさの理解

—川崎の変貌の歴史と地域特色の把握—

今年度、川崎市の人口は、ついに140万人を超えた。市制誕生が1924(大正13)年、いまから80数年前である。人口は50,188人だった。やがて、市域拡張を続け、いまの市域に確定したのが、70年ほど前の1939(昭和14)年で、その時の人口は、260,104人を数えた。県下では横浜市に次ぐ都市で、全国第8位の大都市となっていた。その後は、市域拡張は全くなく、戦時下に一時的人口減少があったものの、ただひたすらに人口増加を続けてきた。

いうまでもなく、その背景には圧倒的な流入人口があった。川崎市民のルーツをたどれば、その大半は他府県からの移住市民であった。その中には、この都市を終の住処と選んで住み着いた人も多いが、一方では川崎都民の意識を持ち続ける人もいる。さらには、社会経済の国際化にともなって、多様な外国人市民も増えつつある。

このような140万人が住むという巨大都市そのものがもたらす、さまざまな社会構造や地域形成、文化的諸相や生活様式などが、まず「かわさきらしさ」の骨組みとなっていると言えないだろうか。だが、巨大都市に成長したとはいえ、それでも川崎固有の風土と歴史をしっかりと持ち続けてきた。隣接する横浜にも、東京にもない、それこそ川崎らしい風土と歴史に彩られてきたともいえる。

実のところ、かつての川崎は、「母なる川一多摩川」と「江戸海」に育まれた水辺都市として形成されていた。400年前に疎通した稲毛・川崎二ヶ領用水が、多摩川下流域の沃野を、稲毛米の穀倉地帯に変えた歴史を持つ。来る2011年には、用水竣工400年の節目の年を迎える。

また、緑豊かな多摩丘陵を蚕食するように、大掛かりな宅地化・都市化が進行した。それでも、生田緑地や黒川、岡上などを筆頭に、残された里山や緑地も散在する。いずれにしても、この巨大都市川崎は、日本有数の産業都市へと発展した。すでに2008

年には、工都川崎 100 年の節目を迎えたが、その足取りは、水辺への工場進出で始まった。当初は多摩川下流沿岸に、ついで東京湾沿岸へと拡大した。高度成長期、その経済発展を大きく支えたものの、日本有数の公害都市のレッテルも貼られた。だが、その克服に多大の力を尽くし、いまでは世界的企業も出現するイノベーション都市へと、その歩みを続けている。

かような歴史的歩みに即応して、それこそ多様な地域形成が進み、個性ある市民文化が育まれてきた。臨海部（埋立地）の工業港湾都市・多摩川に沿った細長い市域、多摩丘陵の新市街など特色ある地域形成が進展し、川崎駅周辺地域・武蔵小杉駅周辺地域・新百合ヶ丘駅周辺など、新都市整備の新展開が注目されている。

音楽のまち、芸術（映画・市民劇）のまち、読書のまちなど新しい文化活動が提唱され、市民の多彩な文化活動が展開される。また、歩射祭り・獅子舞・曲持ちなど旧来の民俗芸能も健在で、幅広い市民活動（市民自治）も活発化している。

そこで要約すれば、かわさきらしさとは、次の三項に絞ることができよう。

- * 多彩な市民が暮らし、活動する巨大都市＝かわさき
- * 母なる多摩川に生まれた水辺都市＝かわさき
- * 工都の歴史を刻んだ活力ある産業都市＝かわさき

いま、この川崎の大地に繰り広げられてきた歴史のダイナミズムを、解き明かす格好の時を迎えている。

（3）かわさき資料に関わる特色ある図書館サービスをすすめるために

川崎市立図書館は、今後、多彩な市民の、ますます多様化するニーズに即応できる存在にならなければならないが、そのための第一歩は、ごく当たり前のことになるが、「川崎の地域社会にねざした図書館」であることだ。新市民が増え、その第二世代、第三世代が育っていくなかで、「川崎を知りたい、川崎のことをもっと知りたい」という願いは、川崎市民の最も基本的なニーズになっている。その願いに応え、「かわさきがわかる」図書館であってほしい。「かわさきのことなら、何でもおまかせ」と言い切ることができることだ。市民が図書館へ行けば、川崎のことは何でも分かる、そんな図書館をめざしてほしい。

第二は川崎らしい図書館業務の特色を持つことである。地域とかかわってきた図書館業務の実績を振り返り、さらに拡充していくことを期待したい。

第三は地域文化創造の場としての図書館をめざすことである。そのためには、地域の歴史・文化・環境（自然・社会）の研究、調査、学習の場としての図書館であり、市民の出会い・学び合いの場としての図書館であり、図書館利用市民との協働の場である図書館づくりをめざすことが大事である。

こうした図書館を実現するには、まず、かわさき資料に関わって、次のような取り組みを強力に進めることが必要である。

① 川崎資料の収集、作成による充実したコレクションの形成。

「かわさきのことなら、何でもおまかせ」、図書館へ行けば川崎のことは何でも分かる、そんな図書館であるためには、まず川崎に関連する資料の充実したコレクションを構築することと、所蔵できないものについては、外部情報へのアクセスを提供す

ることができるようにすることが不可欠である。

- ② 二次資料の作成等による積極的な資料情報の提供・発信と資料利用の促進。

川崎資料の充実したコレクションも、所蔵しているだけではなく、様々な形での検索手段を提供するとともに、利用促進のための積極的な情報発信が必要である。

- ③ 市所管の専門資料情報機関と連携し、資料データの共有を図る。また、その他の機関とも連携を進める。

これら3つの側面について、次節以降で詳しく検討したい。

(4) 川崎資料の収集、作成による充実したコレクションの形成

ア. 川崎資料のコレクション構築のための具体的かつ詳細な方針作成が必要

現在の「川崎市立図書館資料収集要綱」では第5条の資料別収集方針の下に、「地域・行政資料」の項が設けられているが、そこには、「①川崎市に関する地域・郷土資料及び行政資料は網羅的に収集し、神奈川県及び隣接市町村の資料についても、できる限り収集する」と「②川崎市ゆかりの作家、文化人の著作物を収集する」という簡単な規定があるだけである。この要綱を、上記(2)に挙げた「川崎の変貌の歴史と地域特色の把握」に基づき、次項以降で述べるような、収集テーマや資料の種別等を具体的かつ詳細に展開する形で、精緻化を図るべきである。なお、子どもが利用できる児童向け地域資料の収集・作成についても、収集要綱に明示する必要がある。

イ. 収集対象の選定と収集方針への盛り込みが必要

①川崎市と関わりの深い収集テーマの選定

府中市立図書館では、「国府・国分寺」「けやき並木」「甲州街道」「馬」「多摩川」「在住著者」「大賀一郎博士・ハス」という7つのテーマを設定して、関連資料の収集に努め、地域資料の中の特別コレクションを形成している。

川崎市立図書館でも、まもなく竣工400年を迎える「二ヶ領用水」に関しては、重点的に収集対象としており、図書館ホームページでも、「二ヶ領用水」に関するパスファインダーを設け、詳細な「二ヶ領用水関係資料目録」を掲載している。「二ヶ領用水」の他にも、「多摩川」「東海道」「川崎宿」「川崎大師」「地場産業」「公害」「社史・団体史」「学校史」等々、川崎を特徴づけるテーマを選定し、収集方針に盛り込んでいくことが必要である。特に「多摩川」といったテーマでは、上記府中市など、多摩川に関連する近隣自治体図書館との協働も検討することが必要である。

また、川崎市が取り組む「読書のまち」「音楽のまち」「映像のまち」事業との関連で、「読書」や「音楽」「映像」などを、川崎を特徴づけるテーマに取り入れることも考えられるが、このテーマに関しては、次のⅢ章で扱うこととする。

次に、川崎と関連の深い人物についての資料・情報の収集も重要である。広島市立図書館では、図書館のホームページ上に「広島ゆかりの人物情報」を登載しているが、そこでは、歴史、政治・経済、文化・芸術、スポーツ、科学、平和の各分野に分けて、77人の著名な人物を取り上げ、簡潔な人物紹介とともに、所蔵する関連資料を検索し表示できるようにしている。川崎でも、詩人・佐藤惣之助を始め、岡本かの子や岡本太郎、浜田庄司、^{えんつばかつぞう}圓鏝勝三等々、川崎が育んだ、ゆかりの著名人、文化人は、数多く存在する。こうした「川崎ゆかりの人たち」について、伝記や著作等の関連資料を

収集するとともに、人物像と活動を紹介していくことは、川崎市立図書館の大きな特色となるであろう。本報告書では、巻末に資料として、二百数十人の「川崎ゆかりの人物リスト」（参考資料2参照）を添付したので、収集対象の人物選定に役立ててほしい。

最後に、地域資料というと、ともすれば歴史や地誌関係資料にのみ焦点があてられる恐れがあるが、市民の日々の生活に直結するような行政資料の収集に、もっと力を注ぐべきである。市議会の会議録や市の予算・決算書、市が公開する各種の計画書や報告書、統計、その他の刊行物等を、計画的、網羅的に収集すべきである。

②様々な形態の資料を収集する

収集対象となるテーマや人物等を選定した後は、それらに関する図書や雑誌だけではなく、様々な形態の資料・情報を収集すべきである。パンフレット類は言うに及ばず、雑誌や新聞の記事レベルでの収集が必要である。特に、地域情報の収集には、新聞切り抜きは欠かせない。また、行政資料では、出版物とはいえない配布資料や文書等の生資料が重要な位置を占めるだろう。地域関連資料としては、ミニコミ誌、同人誌、サークル誌等も大事である。

収集対象は、印刷資料だけではない。上記（2）に挙げた「川崎の変貌の歴史と地域特色」を記録するものとして、写真や映像資料の収集が重要である。現在、図書館のホームページ上の Web ギャラリーには、「おもいで昭和 30 年前後の川崎駅前」が公開されているが、こうした地域に残る写真やビデオなどの映像資料の収集にも、もっと力を入れるべきである。

また、今後は、川崎関連の様々な情報が得られるインターネット上の信頼できるサイトを選定し、リンクという形でアクセスの窓口を作ることにも有益であろう。

こうした収集すべき資料・情報の種別については、収集方針に明記すべきである。

③資料収集だけではなく、記録・資料を作り出すことも重要

変貌する地域の風景や地域に残る民俗芸能や行事等を記録として残すには、図書館自らが写真や映像記録の作成に携わることが大切である。

ウ. 市民と協働した地域資料・情報の収集体制作り

川崎資料の充実したコレクション形成のためには、そのための専属スタッフを置き、かわさき資料に関する高い専門性を磨いていくことが大切である。しかし、一人二人の専属スタッフの配置では、十分ではないだろう。一般市民のボランティアや郷土史研究団体など、地域に関わる研究会やサークルなどとの協働した収集体制作りを考える必要がある。

調布市立図書館では、調布に関わる資料や情報を市民ボランティアが収集し、図書館のホームページで公開する「市民の手による、まちの資料情報館 伝えたい～まち・ひと・お話～」を運営しており、「映画のまち調布」や「調布の文学」「ちょうふ人間模様」など、さまざまなテーマの下、興味深い情報が発信されている。また、岡山県立図書館が運営する電子図書館システム「デジタル岡山大百科」でも、歴史や風景写真、人物紹介など、岡山に関する郷土情報を広く県民から募集し、発信している。

こうした活動は、図書館が地域文化創造の要の役割を果たしていく上で重要である。地域に関する新聞切り抜き資料や写真・映像資料の作成などにも、市民ボランティアとの協働は有効であろう。そうした活動を通して、市民が集い、学びあう場としての図書館が生まれてくるのではないだろうか。

(5)二次資料の作成等による積極的な資料情報の提供・発信と資料利用の促進

ア. 川崎資料の存在を容易に知ることができるように、二次資料の作成等、検索の手段を講じること

川崎市立図書館では、巻末の参考資料3に挙げるように、これまでも、地域資料に関する主題別所蔵目録の刊行や、新聞切り抜き資料の編集・製本などを行ってきた。

しかし、2000年以降は、ほとんど行われていないようである。

まずは、川崎市立図書館が所蔵する川崎ならではの地域資料や行政資料、および川崎ゆかりの著名人、文化人の著作や関連資料の完全目録化に取り組むことが必要である。これは、図書資料だけではなく、雑誌やパンフレット、記録・文書類、写真・映像資料、電子資料等、あらゆる記録媒体を含むものでなければならない。作成された目録は、現在図書館ホームページ上で公開されている「二ヶ領用水関係資料目録」のように、インターネット・アクセスを可能にするとともに、検索機能も備えたものとするのが望ましい。

また、新聞切り抜き資料についても、「記事見出し索引」の作成・公開を望みたい。これについては、市川市立図書館の地域情報データベースが参考になる。川崎に関連する雑誌掲載の記事や学術論文の索引も作成・公開できれば、大きな特色あるサービスとなるだろう。

ところで、川崎資料については、川崎市立図書館がすべてを所蔵しているわけではないし、すべてを所蔵できるわけでもない。他の図書館や文書館などの資料保存機関、あるいは個人蔵書にしかないものもあるだろう。古書目録などから入手可能なものもあれば、刊行が確認できても入手不可能なものもある。目指す目標としては、過去・現在、現存・消失、記録媒体の種別、川崎市立図書館での所蔵の有無を問わず、川崎関連の全資料を網羅し、それぞれの所蔵機関を明示した「川崎資料総合目録データベース」の構築が考えられる。今期図書館協議会での討議の中では、まず始めに、こうした網羅的な「川崎資料のデータベース」を作成し、次いで、この中から収集基準に合致するものを入手していくという順序をとるべきだとの意見も出された。つまり、地域資料収集のためのツールとしての川崎資料の全貌把握ということである。川崎資料の全貌把握が発点なのか、目標点なのかは、意見の分かれるところではあるが、現在所蔵する地域資料のデータベースを作成し、日々新たな地域資料を追加収集していく中で、入手不可能な資料についてもその存在を示す書誌データを収め、他機関が所蔵するものについては、その旨を記載していくことで、成果として「川崎資料総合目録データベース」が構築されていくというのが現実的ではないだろうか。

最後に、二次資料の作成に関しても、市民ボランティアや地域に関わる研究会・サークルなどとの協働した活動を考えることができる。先に、地域に関する新聞切り抜き資料や写真・映像資料の作成などに、市民ボランティアとの協働が有効であると述べた。新聞や雑誌の記事索引作りは、長く継続をしていくことが必要であることを考えると、

地域研究会などの活動の中で新聞切り抜き等に協力を求め、あわせて記事索引作りでも協働体制を作ることが考えられると思う。

イ. 川崎資料の利用促進を図るための環境整備と積極的な情報発信を進めること

資料は収集し、検索の手段を講じただけでは十分ではない。市民の活用を促す積極的な仕掛け・試みが重要である。

- ① 中原図書館には、「郷土・行政資料室」が平成 14 年 12 月に開設されているが、より充実した地域資料室・行政資料室の設置が必要である。特に、平成 24 年度開館予定の新中原図書館には、展示活動や調査活動もできるスペースを備えた、充実した「川崎資料室」の開設を望みたい。
- ② 専任のレファレンス・ライブラリアンを配置し、市民の調査・学習活動に対し、専門性に裏付けられた、信頼できる相談業務を提供することが重要である。また、市の行政各部署や議員活動に対しても、資料・情報の提供と相談業務の充実に努めるべきである。レファレンス業務の向上には、職員研修の充実とともに、様々な分野の専門的知識を有する市民の協力を求めることも意義あることと思われる。
- ③ 上記(5)の 1) で述べた川崎の地域・行政資料所蔵目録、および川崎関連の雑誌記事、新聞記事の索引を、データベースとして図書館ホームページで公開する。なお、データベースでは一覧性に欠けることから、できれば一定期間ごとにプリント版を作成し、館内閲覧に供するとともに、関係機関への配布も考えたい。将来的には、他機関所蔵の資料も含めた「川崎資料総合目録データベース」の公開を目指したい。
- ④ 大阪市立図書館のホームページでは、「大阪に関する良くある質問」として、質問と回答が分野別に一覧できるようになっており、回答には、参考文献や関連ウェブサイトのリンクも付されている。川崎市立図書館でも「レファレンス事例集」はあるものの、検索機能のみで、一覧ができない。これを、地域資料について機能アップを図り、テーマ別の情報発信として活用すべきである。
- ⑤ 現在、川崎市立図書館のホームページでは、「わが街・かわさき」の中で Web ギャラリーが公開されているが、内容は「おもいで昭和 30 年前後の川崎駅前（写真 19 枚）」と「浮世絵に描かれた川崎（画像 59 枚）」の 2 件だけである。今後、この Web ギャラリーを一層充実させることで、より積極的な情報発信に取り組むことを求めたい。大阪市立図書館では、時期ごとにテーマを決めての Web ギャラリーを展開しており（2010 年 2 月現在では、「糸偏の町大阪」）、解説付きの絵図や古写真の画像とともに、参考文献を掲載している。その他、先に挙げた、調布市立図書館の「市民の手による、まちの資料情報館」など、参考とすべき事例は多い。また、ここでも、市民との協働を考えることができる。
- ⑥ 横浜市中心図書館では、これまで蓄積してきた横浜資料を活用し、活字資料、浮世絵、絵図、絵葉書等のデジタル画像を「都市横浜の記憶」として公開し、検索機能を付し、必要に応じて本文の表示もできるようにしている。このように、貴重資料や、写真など、特定の原資料を電子化して編集・公開する「デジタル・アーカイブス」の構築に、川崎市立図書館も取り組むべきである。ここでも、香川県立図書館のように、地域資料の電子テキスト化に、市民ボランティアの協力を求めること

が考えられる。

- ⑦ 大阪市立図書館では、所蔵する地域資料の中から古い名所絵葉書や絵図などを PDF ファイル化し、利用者がダウンロード・印刷の上、文庫本用ブックカバーとして使えるサービスを行っている。同様のサービスは、調布市立図書館の「まちの資料情報館」でも行われており、こちらは、様々な「まちの資料」をイラスト化し、3 か月ごとのカレンダー付きの「オリジナル壁紙」として配信している。いずれも、市民の関心を呼び込む興味深い試みであり、参考とすべきである。
- ⑧ 地域資料や地域情報を核に、市民の出会い・学び合い・協働の場としての図書館とするために、様々な企画・展示を開催したり、学習会、研究会、サークル活動などに利用できる交流室、談話室を整備することが重要である。

(6)市所管の専門資料情報機関と連携し、資料データの共有を図る。また、その他の機関とも連携を進める

前期の報告書にもあるように、市所管の専門資料情報機関が所蔵する資料の有効利用を高め、市立図書館のサービスの幅を広げるためにも、市民ミュージアムや議会図書室、公文書館、国際交流センター、地名資料室、行政機関などの所蔵資料を、図書館を通して検索できるようにすることが重要である。これは、市立図書館だけでは出来ない特色を生むことになるだろう。また、将来的には、先に述べたように、所蔵機関を明示した「川崎資料総合目録データベース」の構築へとつなげたい。

中原図書館と公文書館、市民ミュージアム、地名資料室は、平成 18 年度以来、その所蔵する歴史的資料類の効率的な市民利用を考えるために、「歴史的資料等活用促進検討委員会」(平成 21 年度～:「歴史的資料等取扱施設連絡会」)を設け協議を進めてきているとのことであるが、その成果を期待したい。

この他、今後、民間資料室や企業資料室(公開の場合)との連携の道も探るべきである。なお、学校図書館や川崎にある大学図書館との連携については、次章Ⅲの(1)と(4)で扱うこととする。

III 地域資料関連以外での特色あるサービス

(1) 地域資料以外のコレクションと関連活動とで特色を出す

地域資料以外でも、独自の企画で特色を出すことが考えられる。さいたま市の東浦和図書館が、区内に「さいたまサッカースタジアム」があることから、「サッカーコーナー」を設け自館の特色としているように、川崎でもサッカーなどのスポーツ関係資料を特色の一つとすることも考えられる。この他、現在でも収集対象としているハンブルグや中国語、英語などの外国語資料をより充実させることで、特色とすることも可能である。また、川崎市は、魅力ある街づくりをめざし、「川崎の魅力を育て発信する取組」を進めているが、その中心をなしているのが、「音楽のまち・かわさき」「映像のまち・かわさき」の取り組みである。芸術・文化の活動は、単に魅力ある街づくりだけではなく、市民の豊かな感性と創造性を育み、活力ある地域社会の実現に必要な営みであることから、音楽・映像関係資料を特色とすることも考えられるだろう。

現在、川崎には、昭和音楽大学と洗足学園音楽大学の二つの音楽大学があり、4つの市民オーケストラ、150を超える市民合唱団、企業の吹奏楽団や合唱団、加えて若者たちのストリートミュージシャンの活動などが盛んである。また、各区市民館での民謡発表会も他府県からの移住者によって形成されてきた川崎ならではの活動として健在である。音楽は市民生活の中に深くしみこみ、街中に定着して「音楽のまち・かわさき」の雰囲気を作りだしてきている。

また、川崎にある4つのシネマコンプレックス映画館のスクリーンは41を数え、観客動員数は全国一である。臨海部の工場跡地にはロケスタジオができ、市内各所のロケ地としての活用も目立つようになった。2011年には、麻生区に、日本で初めての「日本映画大学」の開校も予定されており、「映像のまち・かわさき」も川崎を特徴付けるひとつとなってきている。

その川崎にあって、市立図書館も、音楽・映像の街にふさわしい充実した内容の資料を整備し、「音楽・映像のまちコーナー」を配置したりすることで、親しみと魅力が増し、より行ってみたいくなる図書館になっていく可能性をもっている。ゆとりと潤い、楽しさや豊かさを求める市民生活に欠かせない音楽・映画・映像活動に対応し、これらを切り結ぶ「音楽・映像のまち・かわさきの図書館」は、魅力ある図書館のありようとして全国に例がない、川崎ならではの特色ある図書館のひとつになるのではないだろうか。

具体的には、川崎の中核図書館か北部・中部・南部の3拠点を選び、全国に誇ることができる音楽・映像関係資料のコレクションと様々な情報発信機能をもった「音楽・映像のまち・かわさきの図書館」にしていくことを提案したい。そこでは、教本や著書、各種資料を充実させるだけではなく、先に挙げた音楽・映画専門大学と提携し、端末による検索、そして貸出活用などができるようにしたい。

また、「音楽のまち・かわさき」推進協議会や市民ミュージアム等とも連携し、音楽・映画に関する情報やコンサート等のイベント情報の発信と交流の基地として機能させることも面白いだろう。コンサートや映写会や情報交換ができる部屋を設置し、賑わいのある図書館の出現も期待したい。

(2) 市民生活に関わる様々な社会的問題へのすばやい対応で特色を出す

ア. 社会的問題への対応

2009年の5月、麻生図書館では、新型インフルエンザに対応して、「感染症に関する本」の特集コーナーを設置するとともに、そのブックリストと「感染症情報センター」などの関係機関へのアクセス情報をPDF化したものを、ホームページに掲載した。同様の試みは、横浜市立図書館でも見られ、テーマ別リストのひとつとして「新型インフルエンザを調べる」を発信している。こうした市民生活に直接関わる様々な社会的問題の発生に敏感に対応して、資料・情報の提供サービスを行うことは、市民に信頼される、大きな特色あるサービスとして重要である。

そもそも、サービスの一環として、地域の公共図書館に、生活に必要な資料・情報が蓄積され、いつでも、どこでも、誰にでも提供できる環境にあることは、いつの時代においても公共図書館が具備すべき必要条件である。しかし、書籍類は図書館側の都合で整理されているため、専門分類を知らない多くの市民ユーザーにとっては、必要とする資料・情報になかなかたどり着くことができないという側面をもっている。このことは、市民の目線に立った分類や蓄積と提供が行われておらず、ユーザーニーズとの間にミスマッチが生じているということでもある。

したがって、社会や地域で起こっている現象について、社会生活に直接関連する事柄を、生活レベルの区分で、わかりやすい表現によって再分類し、提供していくという視点がどうしても必要である。具体的なイメージとしては、〈新型インフルエンザ〉の他にも、〈裁判員制度〉や〈年金問題〉等、いろいろなテーマが考えられるだろう。取り上げたテーマに関する書籍・資料等について、市内図書館ごとの所蔵情報を付した一覧表を作成し、印刷物と電子ファイルの形で提供に努めることを提言したい。

また、インターネット上には、そうしたテーマに関して、図書館資料では得られない「お役立ちサイト」が数多く存在している。こうしたサイトから、信頼できるサイトを厳選して、リンクサービスを提供することも、特色あるサービスとなるだろう。

イ. 情報提供方法の改善と市民ユーザーの満足度

情報の提供方法はWEBベースとし、市民ユーザーに携帯電話を含めたインターネットアプローチの便宜を提供するが、このアプローチが不可能な市民には、図書館ニュース等での印刷物による提供を考えなければならない。新着図書情報の場合には、最新所蔵情報は購入する時期、回数に依存するため、購入方法に工夫や改善が必要である。その際、書籍購入の選定基準を明らかにすることや、市内図書館相互の調整が必要である。

また、不特定多数の興味を特化するのには不可能に近いが、現行の蔵書分類（日本十進分類）に付加する特設コーナーとして、関係書籍をピックアップしたテーマ的な区分にし直し、臨時に提供することを考えるべきである。

公共図書館が個別案件にどこまで関与でき、市民ユーザーの満足度を向上させることができるかは、組織体制の問題を内包しているが、これを打破するには、従来のサービスでは不可能である点を洗い出し、満足度を上げるためのサービスとは何であるかの視点に立って、再構築し、ユーザーとの接点を広げ、定期的に相互調整できる機能を持つ必要がある。ミクロな検索場面では検索タグの拡大化による情報整理の改善により、ある程度の効果は期待できると思われるが、つまるところ、この問題はアクセスビリティ

をいかに顧客ニーズに沿ったものにしていくかということである。顧客ニーズへの満足度の向上策が、ユーザーの要求に対する図書館側の対応策、すなわちアクセシビリティの改善を促進するのである。

(3) 様々な学習・交流活動の企画で特色を出す

2009年10月25日、川崎フロンターレと川崎市立図書館の共同企画「ブックランド TODOROKI」が、等々力緑地で開催された。これは、川崎市イメージアップ認定事業「川崎フロンターレと本を読もう」として実施されたもので、選手の推薦する図書を掲載したリーフレット「キックオフ！ “読書のまち かわさき”：川崎フロンターレ 2009年の15冊」や中村憲剛選手のしおり配布、推薦図書の販売、リサイクル本の無償提供等が行われた。また、後日、川崎フロンターレの選手による子ども達への絵本の読み聞かせ会や「川崎カルタ」のカルタ取り大会も図書館で行われた。こうした試みは、図書館や読書に市民の関心を引き込み、市民相互の交流を生み出す上で、影響力の大きなイベントである。

今後、市民の関心を呼ぶテーマを設定し、様々な学習、交流活動を企画することで、図書館を市民相互に結びつける場として機能させることが考えられる。図書や雑誌のリサイクル会の開催や、健康、趣味、資格、生活、政治等々をテーマとしたイベントなど、企画には工夫を凝らしたい。癒しを求める時代を背景に、大人を対象とした読み聞かせ、「絵本セラピー」の話題が新聞に掲載されたが、面白い企画ではないだろうか。「川崎ではたらく・暮らす」といったコーナーを作り、身近な生活情報を収集して、交流の場とするのも意義あることであろう。

(4) 特色ある児童サービスをめざす

ア. 川崎らしい児童サービスについて

川崎市では、「読書のまち・かわさき」の標語のもとに、家庭・地域・学校での読書活動の推進及び乳幼児期から読書に親しめる環境づくりの推進がうたわれている。

毎年「かわさき読書の日のつどい」には特別な催しが行われ、読書活動優秀団体(個人)への表彰もある。各図書館でも、ボランティアを中心に各種の読書イベントが盛んに開催されている。「読書のまち・かわさき」は、川崎に住む赤ちゃんからお年寄りまで全ての市民が日常的に読書と親しむことを目標としているが、まずは川崎に住む全ての子どもたちにこの標語が具体化されなければならない。そのことはまた、川崎に住む全ての子どもたちが、公共図書館において十分な児童サービスを受けることと合致し、それが何より川崎らしい児童サービスの根幹と言えよう。

子どもたちがこれまでに増して多様さと質の伴った児童サービスを受けられる方策を考えるため、まず川崎市立図書館における児童サービスの現状をまとめた。また川崎における児童サービスの特色として、これまで培われてきた多様なボランティアとの協働があり、これについても現状を概観した(参考資料4参照)。さらに現状に加え、現在策定中の「子ども読書活動推進計画」⁴(第2次)の推進をも、川崎らしい児童サービスの根底に据えるべきであろう。

⁴ 参考：「子ども読書活動推進計画」第1次、川崎市教育委員会・「読書のまち・かわさき」事業推進委員会、平成16年4月
<http://www.city.kawasaki.jp/88/88syogai/home/keikaku/homepage1.html>

イ. 川崎らしい児童サービスに向けての課題

①児童サービス指針の作成

児童サービスの現状を見ると、他の自治体と比べても、必要と思われるサービスは平均的になされている。また、これまでの読書活動に加え、調べることへの支援にも力を入れている。しかしながら、平成16年度に川崎市立図書館職員らが作成した『川崎市立図書館運営検討委員会平成16年度最終報告』⁵を見ると、必要に応じて話し合いがなされているようだが、乳幼児からヤングアダルトまでの明確なサービス指針が無く、各館の力量や独自性にまかされている印象が否めない。川崎市立図書館として、どのような児童・ヤングアダルトサービスをどこまで行うかのサービス指針の作成が早急に必要である。障がい児・入院児などへのサービス、あるいは多文化サービスについての考え方も明記しなければならない。

とりわけ、児童サービスの最初の受け手である乳幼児へのサービスを、さらに具体的に打ち出していく必要がある。全国の自治体の約4割が既に取り組んでいる、赤ちゃんのいる家庭に絵本をプレゼントする「ブックスタート」の可能性をぜひ探っていくべきである。ブックスタートのキャッチフレーズに、「ブックスタートをきっかけに、赤ちゃんにやさしいまなざしが注がれるまちへ。」とある。これは行政の課題である子育て支援の一環ともなり、関連部署や諸機関等と意見を交えながら開始へ向けての検討を始めるべきである。

また、ボランティアとのさまざまな協働は、川崎らしさの一つとして捉えられる実績がある。各館らしさを大切にしながら、館によっての関わり方のばらつきをなくしていくよう、ボランティアに対する図書館の基本的な考えをまとめることが必要であろう。これには、ボランティア受け入れのガイドライン、受け入れ窓口、研修・活用、定期的な話し合い設定などが含まれる。ブックスタートが開始されれば、さらなるボランティアの力も求められる。また、文庫や関連諸施設・団体等との協働もさらに図っていく必要がある。

②学校図書館との連携・協力

学校図書館との有効な連携・協力推進のためには、公共図書館と学校図書館が担う役割を明確にした上で、各自の情報がスムーズに伝わるシステムが必要である。このため学校図書館と公共図書館間での簡便でわかりやすい連絡システムの形成が求められる。公共図書館からの連絡が校長、司書教諭、図書主任、学校図書館コーディネーター、ボランティアへ、効率的かつスムーズに伝えられる方法も、このシステムに取り込む必要がある。これには例えば千葉県・市川市の事例のように、公共図書館と学校図書館の枠を超えた行政としてのシステム構築も考えるべきであろう。さらに、購入資料の分担や年間計画の情報共有等についても十分に話し合う必要がある。

公共図書館は学校に対してこれまで一定程度、連携・協力・情報発信を行ってきたが、さらに公共図書館が学校に対してどのようなサービスを行えるかを明確に伝えていく必要がある。例えば、利用案内、購入相談、研修、配本などについて、より役立つ具体的な提案を学校側に提示していくことが重要である。

これからの課題は、多忙な教師の意識をどのように公共図書館の蔵書やサービスへ

⁵ 『川崎市立図書館運営検討委員会平成16年度最終報告』同編集委員会編、川崎市立図書館、平成17年8月
内容は市立図書館ホームページ参照 (http://www.library.city.kawasaki.jp/pdf/regulations/06uneihoukoku_h16.pdf)

向け、活用してもらおうかであると思われる。教師集団に何らかの形で公共図書館を利用してもらおう仕組みも必要となろう。

ウ. さらなる川崎らしい児童サービスの追求

児童サービスに、既にある「川崎らしさ」を積極的に取り込んでいくべきである。そのためには子ども向けのみならず、一般向け資料も含めた既存の資料の有効活用を図る必要がある。また、川崎市における様々な活動にアンテナを張り、子どもから大人まで参加できる楽しい催しを企画し、子どもたちが川崎について良く知り愛着を持てる機会を増やしていくことが大切である。

①地域資料の活用

一般向け資料はかなりの収集がされている。今後、児童に対してどのように活用できるかを考えるとともに、児童向けにどのような資料があり、どのような新たな資料が必要かを整理する必要がある。さらに児童に向けての情報発信、展示や解説、人的資源、関連の映像資料などを活用した催しを考えていくべきである。

②「音楽・映像のまち・かわさき」との連携・協力

音楽・映像関係の専門大学や学生等と交流しながら、子どもたちがアートに触れる機会を増やすことを考えるべきである。関連団体や機関とどんなことができるかの話し合いを深め、具体的な催しに結びつけていく必要がある。子ども向け資料の充実も図りながら、「音楽・映像のまち・かわさき」との合同の催しにも積極的に取り組むことが大切である。

③多文化サービスの充実

川崎には在日韓国・朝鮮人など外国籍の人々も多く、姉妹都市等との関わりも深い。図書館ではハングル資料やハングル・中国語の検索機能も備えている。各国の資料の紹介・展示や在住外国人との交流・催し等の多文化サービスを通して、子どもたちが様々な国の資料や文化、そして様々な国籍の人々とふれ合う機会を充実すべきである。

エ. 川崎らしい児童サービスを支えるために

①担当職員の専門性の向上

川崎らしい児童サービスを進めるにあたり、職員には各サービスについての考え方や実際の内容に習熟し、かつ、地域の子どもたちの読書活動や調べごとについて関連施設や団体等と連携・協力し合い、コーディネートしていく力量が必要となる。そのためには、担当職員の専門性の向上が必要不可欠な条件となる。

②市民に児童サービスについての理解を深めてもらう

児童サービスについて多方面からの役立つ情報を提供する必要がある。多様な広報の充実を心がけながら、とりわけ若い世代にPRできるホームページの充実が重要である。児童・ヤングアダルトにとって楽しく役立つ画面作りを目指すとともに、大人に向けて児童サービスを理解・応援してもらえよう取り組む必要がある。例えば、子どもたちの年齢ごとにどんなサービスが受けられるのか、ボランティアの受け入れがどうなっているのか等々について発信していくことが求められる。何より利用者がどんな情報を欲しているかを知ること努め、わかりやすい画面作りを心がけていくことが重要である。

IV おわりに

今期の図書館協議会は、「川崎としての特色のある図書館のあり方について」という諮問を受けて精力的に討議を重ねてきた。「はじめに」でも述べたように、今期のテーマは、前期すなわち平成18・19年度の本図書館協議会報告書である「川崎市立図書館の運営理念および活動目標について」の中で提言された運営理念のひとつそのものであった。そのため、今期の図書館協議会では、「川崎としての特色のある図書館」を実現するためのより具体的なアクションプランの提言を目指すこととした。

答申として出来上がった本報告書にはいくつかの特徴がある。第一の特徴は、川崎と同じ政令指定都市を始めとする他都市の活動事例をできるだけ多く織り込んだことである。それは、取り組むべき活動の実際の姿をより具体的に理解してもらいたいという思いと、他都市の試みに学ぶべきものはたくさんあるという思いからである。川崎にできないことはないはずである。

第二の特徴は、討議の過程で作成・提供された資料のいくつかを「参考資料」として報告書に収めたことである。それは、図書館協議会の活動の成果を将来にわたって積み上げていってほしいと考えたからである。「川崎市立図書館が作成した地域資料関係の目録等一覧」などは、不備があれば訂正し、新たに目録が作成されればこれに加えるということで、より完全なものにしていくことが期待できる。また、「川崎ゆかりの人物リスト」などは、記事として連載された新聞へのアクセス情報を付して、今すぐにでもホームページに載せ、市民からの新たな関連情報を求めることも考えられる。もちろん、図書館所蔵の関連資料がある場合には、そのアクセス情報を少しずつ加えていけばよいのではないだろうか。

第三の特徴は、市民との“協働”という観点を重視したことである。本報告書の中で提案したことは、限られた図書館職員だけの力ですべてが実現できるわけではない。そのため、提言には、一般市民や地域に関わる研究会などとの協働が有効に働く場合にはその旨を出来るだけ記すこととした。そのことは、地域に根ざす図書館として多くの市民に図書館に関心をもってもらえるようにする意味でも重要なことであろう。図書館側には、より一層の企画力とコーディネート能力が求められる。

市民との“協働”を重視した図書館運営は、有効に機能すれば、それ自体極めて大きな特色ともなりうるものである。この他、討議の過程では、自宅から自力では図書館へ出向くことが不可能な人や社会福祉施設等へのアウトリーチサービスの充実も提案されたが、これも社会的弱者といわれる人に優しい図書館として重要な特色となりうるであろう。

以上、今期の諮問に対する答申として本報告書をまとめたが、行政当局におかれては、この答申内容を十分にご理解いただき、今後の図書館サービスに可能な限り反映していただくことを、委員一同期待している。

V 参 考 資 料

(1)川崎市立図書館資料収集要綱

川崎市立図書館資料収集要綱

(目的)

第1条 この要綱は、川崎市立図書館設置条例および川崎市立図書館規則に規定する事業を円滑に行うため、川崎市立図書館における資料の収集に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(資料収集の基本方針)

第2条 川崎市立図書館は、市民の要求や社会的動向等が的確に反映されるよう十分配慮して、市民の自主的な学習、調査研究、趣味、娯楽等に必要な資料および情報を幅広く収集するものとする。また官庁・自治体・議会が発行した資料および情報を収集する。

2 資料の収集にあたっては、次の点に留意する。

- (1) あらゆる思想、信条、学説、宗教に対して、自由かつ公平に扱う。
- (2) 個人、組織、団体からの圧力や干渉によって収集の自由を放棄したり紛糾をおそれて自己規制したりしない。
- (3) 人権を侵害するおそれのある資料は、特に慎重に採否を決定する。
- (4) 図書館員の個人的関心や好みによって選択しない。

3 資料の選定については、選定委員会を設け、図書館員の合議によって行い、図書館長が決定する。

(資料収集の種類と範囲)

第3条 収集する資料は国内出版物を中心に、全分野にわたり、基本的なものから必要に応じて専門的なものまで幅広く収集する。

2 収集する資料の種類については、(1)図書(2)逐次刊行物(3)地域・行政資料(4)視聴覚資料(5)障害者サービス用資料(6)電子資料(7)その他(パンフレット他)など、時代の要求にあった多様な形態のものを収集する。

(資料収集の分担)

第4条 各区図書館、分館、閲覧所、自動車文庫は、それぞれの役割、機能にしたがって収集するものとする。

2 収集にあたって各区図書館は、特色ある蔵書内容をはかり分野別分担収集に努める。分野別分担収集の基準については別に定める。

(資料別収集方針)

第5条 資料別の収集方針は次のとおりとする。

(1)一般図書

一般図書は、科学技術の進展や社会的動向に留意し、職業活動、地域活動、家庭生活の向上に資することなどに配慮して幅広く収集する。

(2)児童図書

① 児童図書は、乳幼児から小学校高学年程度を対象に、子どもが読書の楽しみを発見し、読書習慣の形成と継続に役立つ資料を収集する。特に、長く親しまれている絵本など、基本的な資料は欠本を生じさせないようにする。

② 調べ学習など調査研究のための資料を幅広く収集する。

(3)ヤングアダルト図書

ヤングアダルト図書は、中学生、高校生ならびに同世代の青少年を対象に、進路・職業選択に関わる資料・情報に留意し、教養、趣味、娯楽、実用にわたり関心の高い資料を収集する。

(4)参考図書

参考図書は、市民の一般的な調査研究のために必要な事典、辞典、年鑑、目録、書誌、地図等を幅広く収集する。

(5)外国語図書

外国語図書は学習、教養、娯楽に応えられるよう、英語、中国語、韓国語などを中心に収集する。

(6)逐次刊行物

新聞は、主要全国紙、地元地方紙を中心に、必要に応じ専門紙、外国語紙についても収集する。

雑誌は、国内発行の各分野の基本的・代表的な雑誌を中心に、必要に応じ海外雑誌も含めて収集する。

(7)地域・行政資料

① 川崎市に関する地域・郷土資料及び行政資料は網羅的に収集し、神奈川県及び隣接市町村の資料についても、できる限り収集する。

② 川崎市ゆかりの作家、文化人の著作物を収集する。

(8)視聴覚資料

視聴覚資料は、学習、教養および実用等に資するため、録音資料等の基本的な作品及び代表的な演者の作品を中心に収集する。

(9)障害者サービス用資料

図書館利用に障害のある人たちへのサービスのため、録音図書、大活字本及び拡大写本の絵本等を収集する。

(10)電子資料

電子資料は、調査研究に応えられるよう、各種電子媒体による出版資料およびインターネット情報や各種データベースを必要に応じ収集する。

(11)その他

パンフレット等は、必要に応じて収集する。

(12)寄贈資料

寄贈資料の受入についても、この収集要綱を適用する。

(複本)

第6条 特に利用の多い資料は複本を揃える。複本の基準については別に定める。

(未所蔵資料へのリクエスト)

第7条 リクエストされた未所蔵資料は、選定基準に基づきできる限り収集する。ただし視聴覚資料、学習参考書、問題集、コミックス、著しく高度な学術書へのリクエストは原則として対応しない。

(蔵書の更新・除籍)

第8条 常に質の高い新鮮な資料構成を維持するため、別に定める除籍および保存の要綱に基づいて資料保存の状況に留意しつつ、資料の除籍を行い、基本的資料及び利用度の高い資料については買い替え等により補充する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、資料の収集に関する事項については、図書館長が別に定める。

附則

この要綱は、平成17年6月1日から施行する。従前の「川崎市立図書館資料収集に関する要綱」(昭和54年4月12日制定)は廃止する。

V(2) 川崎ゆかりの人物リスト -1-

1	多摩川築堤と秋元喜四郎	51	玉川和唐紙の田村文平	101	北原白秋と多摩川音頭
2	川崎宿の恩人 松平正綱	52	民権家・上田忠一郎	102	友愛会と鈴木文治
3	図書館開設と隆超山主	53	寺門興隆の深瀬隆健師	103	菅生学校の三宅直行
4	鎌倉御家人・稲毛重成	54	芭蕉と2つの句碑	104	安藤安と丸子橋架橋
5	煉瓦工場と増山周三郎	55	川信創業の工藤雄弘	105	「松葉屋」の松原八郎
6	埋立て事業と浅野総一郎	56	中野島村新六の鯉漁	106	「治水要辨」と森田通定
7	民権家・山田泰造	57	「銀バス」と伊藤喜代司	107	戦国武将・吉良頼康
8	市本庁舎と直喜安三郎	58	荻田主馬と辻が花染小袖	108	初代校長・浅井嘉七郎
9	細王舎と箕輪玄作	59	勝福寺梵鐘と十阿	109	国人領主・江戸氏一族
10	市場村名主・添田知通	60	鎌倉武将・佐々木泰綱	110	県農事試験場・富樫常治
11	村落劇場と上田久七	61	工場招致と石井泰助	111	白秋と禅寺丸柿
12	日本鋼管と今泉嘉一郎	62	反公害の斉藤又蔵	112	豪商だった新井妙法
13	勸進帳と如実法印	63	新田開発と池上幸豊	113	川崎宿の万年半七
14	干鯛屋・野村文左衛門	64	和製砂糖と池上幸豊	114	井利忠と大野丸
15	順天堂と佐藤泰然	65	池上幸豊を支えた人びと	115	柳田国男の「榎戸懐古」
16	民権家・井田文三	66	塩浜にきた徳本行者	116	丸子庄領主・葛西清重
17	丸山教と伊藤六郎兵衛	67	平賀栄治と円筒分水	117	白秋と久地梅林
18	相撲とり入間川五右衛門	68	小御家人・加世一族	118	佐々木道誉と太田洪子郷
19	江戸名所図会と斎藤幸孝	69	太田やすと弘法大師	119	軽部五兵衛と赤穂浪士
20	水恩の人・小泉次大夫	70	正岡子規の川崎来遊	120	清川八郎と川崎大師
21	小向梅林と成島柳北	71	王禅寺ゆかりの学僧・印融	121	北条氏家臣・中田加賀守
22	旗本・本郷泰固	72	戦後復興と金刺不二太郎	122	蘭方医・太田良海
23	吉沢寅之助と桃栽培	73	太田道灌と川崎市域	123	地域医師・太田東海
24	多摩川築堤と有吉忠一	74	さいか屋と岡本傳之助	124	高田与清と「世田谷紀行」
25	田島体験学校と山崎博	75	平間の商人・浄慶	125	浮岳堯文と成志学校
26	土建請負と中田峰四郎	76	駅ビル建設と根本茂	126	菅生郷領主・小山有高
27	山口瞳が住んだころ	77	元彦根藩士・畑権助	127	俳人・花鳥菴梅動
28	力持ち卯之助と平次郎	78	文才に秀でた長弁	128	長谷川平蔵と池上新田
29	社会館と町田練秀	79	テレビの申し子・坂本九	129	国木田独歩と溝の口
30	民衆描いた福田正夫	80	道灌の曾孫・太田康資	130	老巧な武士・小山田有重
31	人力車営業の小川松五郎	81	人気女優・川崎弘子	131	「盤盤記」と弁良法印
32	郷土の詩人 佐藤惣之助	82	大田南畝と玉川水防巡視	132	名所図会の長谷川雪旦
33	世界的陶芸家・濱田庄司	83	人生の証人・鈴木繁雄	133	小机城主 北条氏堯
34	歴史刻んだ石工たち	84	藤村屋の斎藤繁蔵	134	平賀栄治と宿河原堰堤
35	豪快な開拓者たち	85	旗本の前場家断絶	135	津田山と津田興二
36	河港水門と金森誠之	86	剛腕の鈴木喜三郎	136	小机城主北条氏光
37	陶山篤太郎と詩作活動	87	兼好法師と宿河原	137	東京電気の新荘吉生
38	旗本木造家の改易	88	岡本かの子と多摩川	138	画家小林寒林と平間寺
39	浪漫事件と熱田五郎	89	小田村の旗本・間宮士信	139	老人亭宝水と芭蕉句碑
40	ホルモン剤開発の山口八十八	90	日栄運輸の高須栄次郎	140	稲毛荘の荘官・大江氏
41	共通の師・成島道筑	91	上菅生村の田沢義章	141	民権家・岩田道之助
42	鉄工所創設の福嶋安五郎	92	実業家・若尾幾造	142	田山花袋と多摩川右岸
43	長十郎梨の当麻辰次郎	93	味の素創業者・鈴木三郎	143	佐藤惣之助と母
44	地方巧者・田中休愚	94	小田急開通と利光鶴松助	144	民話作家・萩坂昇
45	多摩川治水と添田知義	95	製粉王・正田貞一郎	145	日本鋼管の白石元治郎
46	頼朝の弟・阿野全成	96	富士紡川崎と和田豊治	146	太田洪子郷と葛山定藤
47	牛田鶏村と塚越時代	97	大仏次郎と大銀杏	147	石観音道標と斎藤政幸
48	幻の住職・花山純孝師	98	市制施行と3町村長	148	雨乞いする農民たち
49	養蚕振興の関山父子	99	富士講と西川満翁	149	京浜急行の青木正太郎
50	杉田長安と成卿	100	多摩川治水と池上幸懐	150	スイス使節・アンペール

V(2) 川崎ゆかりの人物リスト -2-

151	北条時頼と西明寺	201	岡コレクションと道孝
152	文字彫の名手・飯島吉六	202	高浜虚子の句碑
153	ハリスと川崎大師	203	小野寺福松の招魂碑
154	廻国雑記と道興准后	204	怨霊となった新田義興
155	異端の画家・中村正義	205	助産婦・高木テツ
156	公害と闘った宮崎一郎	206	西脇順三郎と影向寺
157	大貫晶川と多摩川	207	矢島七藏・御幸村長
158	在村民権家・河合平蔵	208	塩づくりの土岐磯吉
159	青木英棟と新田開発	209	彫刻家・円鍔勝三
160	木月宿泊の連歌師宗長	210	岡重孝・高津村長
161	濱田庄司生誕地の記念碑	211	彫刻家・円鍔勝三(続)
162	中村星湖と農民劇場	212	ドイツ人技師アウマン
163	日求上人と祖師縁起	213	鼎座句碑と伊東葦天
164	平間寺の隆超師	214	石匠・初代内藤慶雲
165	杉山神社祀と領主たち	215	最後の川崎町長・小林五
166	田中亀之助と大師電鉄	216	特志寄付者・斎藤金太郎
167	長谷川安卿と末広松	217	川中初代校長・三森浜吉
168	快男児・林喜楽	218	飯田助大夫快三と柳北碑
169	紀伊国屋 桜井又大夫	219	秀忠御台所・崇源院
170	小沢城と高麗経澄	220	日純と妙泉寺
171	年寄役権之丞と時の鐘	221	俳人・小倉緑村
172	演劇人 黒沢参吉	222	製紙業の吉澤勇次郎
173	勝海舟と大幟	223	南武鉄道と秋元喜四郎
174	女流歌人 三田管子	224	中島正賢と日東製鋼
175	稲毛領総代源左衛門	225	日比谷平左衛門と富士紡
176	奇跡の生還・青木正好	226	山田昌邦と東京製鋼
177	法体の益田孝清	227	鳥養彦太郎と麻真田
178	嘉稜紀行の村尾正靖	228	屋井先藏と乾電池製造
179	陶芸家バーナードリーチ	229	高橋憲太郎と川崎運送
180	教祖・関山盛衆師	230	森轟祖と日本火工
181	勘定吟味役・金沢千秋	231	三宮吾郎といすゞ自動車
182	煤煙防止の中嶋英夫	232	福沢桃介と大同特殊鋼
183	尺八の福田蘭童	233	山口喜三郎と東芝
184	山本鼎と農村美術講習会	234	安田善次郎と浅野埋立地
185	相羽有と日本飛行学校	235	キーファーと富士電機
186	安部幸兵衛と増田増蔵	236	農民の救世主・安正
187	地域医療の大貫喜久三	237	惣之助と宮沢賢治
188	東京電気の藤岡市助	238	彫物師・船橋囃三
189	園芸家・フォーチュン	239	小泉利左衛門と架橋
190	竹村立義と松蓮寺紀行	240	岡道孝のクイン・ガルトン
191	社会奉仕の大貫ハツ	241	作曲家・古賀政男
192	郷土史家の中道等	242	諏訪河原の領主清水亀菴
193	初代市助役・横山三佐二	243	出光佐三と日章丸事件
194	大貫寅吉・高津村長	244	池田忠政と水恩の碑
195	都倉義知・宮前村長	245	労働運動家・土井直作
196	俳画家・飯田九一	246	初代市議会議長森安次郎
197	粹人・岡道孝	247	映画王・美須鑛
198	大師電鉄と立川勇次郎	248	さくらの画家・兵頭寿美
199	古美術収集と岡道孝		
200	眼科医・鈴木秀庵		

V (3) 川崎市立図書館が作成した地域資料関係の目録等一覧

地域資料主題別目録

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
川崎市内神社・寺院別資料目録(〔川崎市立図書館 郷土関係主題別所蔵目録])	川崎市立図書館参考事務相互協力委/編集	川崎市立図書館参考事務相互協力委員会	1988	
浮世絵 ー川崎郷土資料展ー	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1965	
岡本かの子展 ーかの子と兄大貫晶川ー	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1967	
川崎に関する資料集	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1983	
行政資料 ー川崎市立中原図書館ー	川崎市立中原図書館/編	中原図書館	1984	
行政資料. 郷土資料目録 ー川崎市立幸図書館ー	川崎市立幸図書館/編	川崎市立幸図書館	1984	
川崎市立図書館街道関係資料蔵書目録 1999年8月11日現在	川崎市立川崎図書館/編集	川崎市立川崎図書館	1999	
川崎の暮らしを支えた二ヶ領用水400年 出展資料解説ー写真と資料でみる二ヶ領用水、いまむかしー	川崎市立川崎図書館/編	川崎市立川崎図書館	1998	川崎市文化財団と川崎市立川崎図書館が、主催した展示の解説資料
川崎市内神社・寺院別資料目録(〔川崎市立図書館 郷土関係主題別所蔵目録])	川崎市立図書館参考事務相互協力委/編集	川崎市立図書館参考事務相互協力委員会	1988	
川崎市立図書館 郷土関係主題別所蔵目録 その1 二ヶ領用水	川崎市参考奉仕委員会/編集	川崎市参考奉仕委員会	1987	
川崎市立図書館 郷土関係主題別所蔵目録 その2 交通機関		川崎市参考奉仕相互協力委員会	1988	
川崎市立図書館 郷土関係主題別所蔵目録 その3 小・中学校社会科副読本・記念誌		川崎市参考奉仕相互協力委員会	1989	
川崎市立図書館所蔵 幸区域に関する文献目録(第1稿)	川崎市立幸図書館/編集	川崎市立幸図書館		
多摩川にかかる橋と年月日	中原図書館/編	中原図書館	1994	
佐藤惣之助展	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1968	
二ヶ領用水 いま・むかし ー宿河原取水口から坂戸橋までー	川崎市立高津図書館/編	川崎市立高津図書館	1997	
大丸用水資料 ー多摩川誌、武蔵野56巻1号、稲城の歩み、稲田の民俗よりー	川崎市立多摩図書館/編	川崎市立多摩図書館	1999	

*二ヶ領用水については、バスファインダーをWeb掲載中

川崎市立図書館刊行物 (史料集ほか)

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
川崎関係史料集 第1集 新編武蔵風土記稿 (上)	川崎市立中原図書館/著	川崎市立中原図書館	1970	
川崎関係史料集 第2集 新編武蔵風土記稿 (下)	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1970	
川崎関係史料集 第3集	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1974	武蔵国田園簿 (元禄)武蔵国群郷帳 武蔵国御改革組合限石高家数附録 (天保)武蔵国郡郷帳 池上新田開発史料 農兵隊関係史料
川崎関係史料集 第4集	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1984	甘蔗製糖関係史料 製塩業関係史料
川崎関係史料集ー第5集ー川崎宿場関係史料 川崎宿助郷関係史料 二ヶ領用水関係史料	川崎市立中原図書館/編	川崎市立中原図書館	1987	
川崎関係史料集ー第6集 池上家文書集成	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1988	
川崎関係史料集ー第7集ー中原街道をゆく	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1989	
川崎関係史料集ー第8集ー明治の国家と川崎 葦火たく人びと	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1990	
川崎関係史料集 第9集 石碑が語る川崎の昭和史 ー戦前編ー	川崎市立中原図書館/編集	川崎市立中原図書館	1991	

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
川崎関係史料集 第10集 多摩川の水害と築堤運動	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1992	
川崎関係史料集 第11集 ーある土木技術者の遺書から ノーマ・多摩川	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1993	
川崎関係史料集 第12集 川崎歴史人物小辞典	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1994	
池上家文書	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館		中原図書館所蔵池上家文書解説資料
池上文書 第1-41集	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館		5分冊に製本
大山街道 二子から上有馬までをたずねて	川崎市立多摩図書館／編	川崎市立多摩図書館	1973	
津久井街道 ー登戸・生田・柿生をたずねてー	川崎市立稲田図書館／編集	川崎市立稲田図書館	1971	
中原街道 ー小杉から久末までをたずねてー	川崎市立稲田図書館／編集	川崎市立稲田図書館	1971	
高津郷土史料集 1篇-16篇	川崎市立高津図書館	川崎市立高津図書館	1968-1994	
府中街道 付・だいし道	川崎市立多摩図書館／編集	川崎市立多摩図書館	1974	

*上記のほか、各図書館郷土史会発行の著作物などがあります。(『川崎研究』『稲田郷土史料集』など)

新聞(川崎版 現物製本)・新聞記事切り抜き(複写)製本など

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
朝日新聞 川崎版		朝日新聞社	1963～	地域版の部分。 以降、継続して保存
朝日新聞 田園都市版		朝日新聞社	1995～	地域版の部分。田園都市版は 1995年半ばより発行。 以降、継続して保存
読売新聞 川崎版		読売新聞社	1980～	地域版の部分。 以降、継続して保存
神奈川新聞		神奈川新聞社	1947～	以降、継続して保存
東京新聞 京浜版 京浜・川崎版 川崎版		東京新聞	1956～	地域版の部分。(欠号有) S42(1967)=京浜・川崎版 S43(1968)～川崎版 S57(1982)まで継続して保存
東京新聞		東京新聞	1984～	以降、継続して保存(欠号有)
稲田ニュース		稲田ニュース社		S39～ 以降継続して保存
川崎時事		川崎時事新聞社		S62(1506号)～H11(2062号)
川崎新聞		川崎新聞社		S24～H8(最終号2359号)
健民生活新聞		川崎健民生活新聞社		S48(575号)～H17(1442号)
タウンニュース		タウンニュース社		S62～ *各区版保存
高津新聞		高津新聞社		1～401号
多摩川新聞		多摩川新聞社		前紙名:高津新聞 402号～
アゼリア誕生 ー地下街 変わる川崎の玄関ー	朝日新聞社／著・編 [川崎市立図書館／写・編]	朝日新聞社	1986	朝日新聞複写製本 昭和61年9月2日-10月8日
映画の情景	朝日新聞社／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	朝日新聞社	2000	朝日新聞複写製本 平成12年4月4日-10日
各駅停車小田急線	朝日新聞横浜支局／編 [川崎市立中原図書館／写・編集]	朝日新聞社	1980	朝日新聞複写製本 昭和55年2月19日-5月27日
港北区	朝日新聞社／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	朝日新聞社	1968	朝日新聞京浜版記事切り抜き 昭和43年1月1日-3月1日
川崎の沖繩人(ウチナンチュ)	朝日新聞社／著・編 [川崎市立図書館／写・編]	朝日新聞社	1988	朝日新聞複写製本 昭和63年 6月6日-6月19日
川崎の自然	朝日新聞社／著・編 [川崎市立図書館／写・編]	朝日新聞社	1972	朝日新聞複写製本 昭和47年 8月22日-
川崎地名ウォッチング	朝日新聞社／著・編 [川崎市立図書館／写・編]	朝日新聞社	1988	朝日新聞複写製本 昭和61年 9月7日-昭和63年3月13日

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
胎動する街 川崎市制80周年	朝日新聞社／著・編 [川崎市立図書館／写・編]	朝日新聞社	2004	朝日新聞複写製本 平成16年1月9日－平成16年11月13日
地域を耕す 田園都市支局10年	朝日新聞横浜総局／著 [川崎市立中原図書館／写・編]	朝日新聞社	2005	朝日新聞複写製本 平成17年5月10日－平成17年5月14日
中本賢の多摩川ノート	中本賢／著 [川崎市立多摩図書館／写・編]	朝日新聞社	1999	朝日新聞川崎版複写製本 1999年9月7日－9日、11日
長十郎ナシ (アベニューかながわ)	朝日新聞／編 [川崎市立多摩図書館／写・編]	朝日新聞社	1993	朝日新聞切り抜き 1993年9月18日
南武線 半世紀プラス1	朝日新聞社／編集	朝日新聞社	1978	朝日新聞複写製本
飛び地物語 －合併後50余年の川崎市岡上地区－	朝日新聞／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	朝日新聞社	1991	朝日新聞複写製本 平成3年2月15日－平成3年2月20日
変る多摩丘陵	朝日新聞横浜支局／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	朝日新聞社		朝日新聞京浜版切り抜き 昭和41年6月16日－23日
碑 (イブミ)	神奈川新聞／編集 [川崎市立高津図書館／編集]	神奈川新聞社	1970	神奈川新聞複写製本 昭和45年2月5日－昭和45年6月25日
かながわの川 第1部	神奈川新聞／編集 [川崎市立幸図書館／写・編]	神奈川新聞社	1987	神奈川新聞複写製本
かながわの川 第2部	神奈川新聞／編集 [川崎市立幸図書館／写・編]	神奈川新聞社	1988	神奈川新複写製本
かながわの地酒	神奈川新聞／編集 [川崎市立多摩図書館／編集]	神奈川新聞社	1980	神奈川新聞複写製本 昭和55年1月4日－昭和55年12月19日
多摩川	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1971	神奈川新聞川崎版「多摩川涼風ハイク」昭和46年7月7日－15日掲載の切り抜き 産経時事「東京を旅する川多摩川」昭和31年7月26日－8月3日掲載の切り抜き
多摩川	毎日新聞社／編集 川崎市立図書館／編集	毎日新聞社	1962	毎日新聞川崎版の記事切り抜き製本 昭和37年9月20日－10月24日 全24回
多摩川を下る	サンケイ新聞社／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	サンケイ新聞社	1980	サンケイ新聞複写製本 昭和55年9月4日－全13回
中学生がつづった大師百年	神奈川新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	神奈川新聞社	1967	神奈川新聞 1967年4月4日－1967年4月14日
文化財ハイク	神奈川新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	神奈川新聞社	1970	神奈川新聞複写製本 昭和44年3月7日－昭和45年6月26日
神奈川の伝説	サンケイ新聞社／編 川崎市立中原図書館／写・編集	川崎市立中原図書館	1978	サンケイ新聞複写製本 昭和53年8月12日－12月13日
かわさき再発見 空中散歩	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年8月14日－平成16年8月31日
かわさき再発見 市制80年の記憶	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年1月1日－平成16年1月25日
かわさき再発見 農業で振り返る80年	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年4月29日－平成16年5月5日
写真は語る 市民が写した記録から	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	1985	東京新聞複写製本 昭和55年11月9日－12月8日
新川崎Note －ぶらり大山街道 1～10－	読売新聞／編 [川崎市立高津図書館／写・編]	読売新聞社	1991	読売新聞複写製本 平成3年6月27日－平成3年7月12日
新川崎Note 小田急線各駅停車1～10	読売新聞／編 [川崎市立高津図書館／写・編]	読売新聞社	1990	読売新聞複写製本 平成2年5月－平成2年6月
新川崎Note 仲見世通 1～10	読売新聞／編 [川崎市立高津図書館／写・編]	読売新聞社	1990	読売新聞川崎版切り抜き複写製本 1990年5月－6月
新川崎Note NO. 1	読売新聞／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	読売新聞社	1986	読売新聞複写製本 小田急線各駅停車 仲見世通
新川崎Note NO. 2	読売新聞／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	読売新聞社	1986	読売新聞複写製本 八ヶ岳キャンプ 川崎球場
新川崎Note NO. 3	読売新聞／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	読売新聞社	1986	読売新聞複写製本 歩け歩け 名橋八選
川崎って何色？	東京新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	東京新聞	1986	東京新聞複写製本 昭和61年10月28日－11月24日
川崎と文学	東京新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	東京新聞	1974	東京新聞複写製本 昭和46年10月10日－昭和49年3月30日
川崎に生きた人びと	東京新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	東京新聞	1967	東京新聞川崎版記事複写製本 昭和43年2月－昭和43年11月

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
川崎の海	東京新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	東京新聞	1986	東京新聞複写製本 平成16年5月24日－平成16年5月26日
川崎宿物語	三輪 修三／筆者	東京新聞	1975	東京新聞複写製本 昭和50年9月15日－12月22日
川崎大師	東京新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	川崎市立中原図書館	1968	川崎大師関連記事 東京新聞複写製本
前進あるのみ 「阿部行革」の2年	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年9月30日－平成16年10月6日
多摩川のむかし	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2005	東京新聞複写製本 平成15年12月1日－平成17年6月27日
地域のページ '04現場からー	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年12月18日－平成16年12月29日
地域のページ かお 顔	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2005	東京新聞複写製本 平成15年12月1日－平成17年2月28日
地域のページ かおー東京新聞複写製本	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2006	東京新聞複写製本 平成18年1月9日－平成18年2月20日
地域のページ かわさき技	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成15年12月7日－平成16年9月26日
地域のページ かわさき技	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年2月15日－平成16年8月29日
かわさき再発見 農業で振り返る80年	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年4月29日－平成16年5月5日
かわさき再発見 変ぼうした街並みー東京新聞複写製本ー	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年4月29日－5月5日
農のまちかわさき	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2003	神奈川新聞記事複写製本 平成15年1月17日－平成16年1月23日
マグニチュード7 その時街は 阪神大震災10年に考える	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2005	東京新聞複写製本 平成17年1月17日
芽はでたのか 検証2004市予算	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年2月12日－3月10日
記者ノート 師走に思う	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2003	東京新聞複写製本 平成15年12月18日－平成15年12月25日
輝け！！ スポーツのまち川崎	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2005	東京新聞複写製本 平成17年1月3日－平成17年1月7日
児童虐待を考える 子どもを守ろう	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2004	東京新聞複写製本 平成16年12月1日－12月2日、平成17年1月3日－1月7日
想造力 Kawasaki発	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2006	東京新聞複写製本 平成18年1月1日－1月12日
耐震偽装	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	2006	東京新聞複写製本 平成17年12月16日－平成18年1月28日
ふるさと川崎の年輪	毎日新聞社／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	毎日新聞社	1974	毎日新聞川崎版複写製本 昭和49年5月1日－10月8日、10日、12日
ふるさとの味 古代の味	読売新聞／編集 [川崎市立幸図書館／写・編]	読売新聞社	1986	読売新聞川崎版複写製本 昭和60年1月30日－2月16日、4月16日－昭和60年4月23日
川崎いまむかし	読売新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	読売新聞社	1978	読売新聞川崎版複写製本 昭和53年1月5日－4月22日
多摩川の生物	読売新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	読売新聞社	1982	読売新聞記事切り抜き製本 昭和57年8月6日－9月4日
夜間中学校	読売新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	読売新聞社	1986	読売新聞川崎版複写製本 昭和59年4月24日－5月16日
かながわ新住圏	神奈川新聞／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	神奈川新聞社	1981	神奈川新聞複写製本 昭和56年
かわさきの教育	神奈川新聞／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	神奈川新聞社	1978	神奈川新聞複写製本 昭和53年5月23日－昭和54年3月14日
ふるさと再発見	東京新聞／編集 [川崎市立中原図書館／写・編]	東京新聞	1980	東京新聞複写製本 1980年9月8日－1981年9月30日
ふるさと再発見	神奈川新聞／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	神奈川新聞社	1982	神奈川新聞複写製本 昭和57年3月14日－5月18日
終点 1～16	朝日新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	朝日新聞社	1983	朝日新聞切り抜き 昭和58年4月19日－5月17日
さばいばる工場群	読売新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	読売新聞社	1986	読売新聞切り抜き 昭和61年1月1日
大川崎ものがたり	川崎郷土研究会／寄稿 [川崎市立中原図書館／写・編]	毎日新聞社	1956	毎日新聞切り抜き製本 昭和31年5月5日－7月28日

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
大師道界限	読売新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	読売新聞社	1983	読売新聞複写製本 昭和58年6月23日－8月2日
南武線 新生へのメッセージ	読売新聞／編集 [川崎市立図書館／写・編]	読売新聞社	1987	読売新聞切り抜き 昭和62年10月28日－11月21日
掘之内いま昔	毎日新聞／編 [川崎市立中原図書館／写・編]	毎日新聞社	1978	毎日新聞記事複写製本 昭和53年10月5日－11月9日

資料目録（個人文庫目録など）

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
小川文庫目録	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1977	
洋書目録 第1～8号	川崎市立高津図書館／編集	川崎市立高津図書館	1959～1968	
蔵書目録 郷土資料篇 第1集	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1967	
あゆたか総索引－総索引－	川崎市立多摩図書館／編	川崎市立多摩図書館	2005	
川崎市刊行物目録 1968	川崎市立稲田図書館／編集	川崎市立稲田図書館	1968	
郷土資料蔵書目録－川崎市立多摩図書館－	川崎市立多摩図書館／編	川崎市立多摩図書館	1984	

浮世絵など解題

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
川崎関係浮世絵集－CD－ROM版川崎関係浮世絵集－	川崎市立図書館地域資料委員会／編	川崎市立中原図書館	2005	*Web掲載中 中原図書館が所蔵する川崎市に 関係する浮世絵をCD－ROM化
錦絵で見る川崎－錦絵で見る多摩川－	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1974	
東京近郊名所図絵 第1巻－17巻－大日本名所図会－	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館		

図書館報、その他

タイトル	著者表示	出版者	出版年	備考
かわさき図書館だより 第1号－第20号	川崎市立中原図書館／編	川崎市立中原図書館	2003	以降継続して保存
こだま 第1号－第20号	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1971	
中原図書館だより 1960－1970	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1963	
川崎市高津図書館報 創刊号～229号－川崎市立高津図書館報－	川崎市立高津図書館／編集	川崎市立高津図書館	1951	5分冊製本
いなげ 第1号～60号 昭和39年－44年(川崎市立稲田図書館報)	川崎市立稲田図書館	川崎市立稲田図書館	1969	
川崎の文学碑 －「富士見」より抜粋－	川崎市立中原図書館／編集	川崎市立中原図書館	1971	川崎市立産業文化会館報記事 切り抜き
小向梅林－資料－	幸図書館／編	川崎市立幸図書館	1990	小向梅林関連パンフレット等合 本製本
高津風物詩 第一集第一編	高津図書館友の会郷土史研究部／編	高津観光協会	1955	観光案内
イラスト高津	川崎市立高津図書館／著		1977	「地名考」の高津区編

V (4) 川崎市立図書館と児童サービスの取り組み・協働の現状

1. 公共図書館サービスの現状

対象年齢に応じた資料の収集

対象年齢によるサービス

①乳幼児サービス

- ・乳児向けコーナー設置
- ・乳幼児向けおはなし会実施
- ・赤ちゃん向けリーフレット配布
- ・子育て支援センター等でおはなし会等開催
- ・マタニティコンサート(読み聞かせ紹介)
- ・乳幼児向け本のリストの発行
- ・幼児向け・児童向け新刊案内(毎月)
- ・特集本の展示

②小学生へのサービス

- ・小学生向けおはなし会(低学年)
- ・小学生向け読書100選
- ・図書館見学案内
- ・夏休み図書館体験
- ・しらべもの相談おたすけ隊(夏休み)
- ・児童・生徒向けパスファインダーの作成
- ・幼児向け・児童向け新刊案内(毎月)
- ・特集本の展示
- ・小学生が読むおはなし会

③障がい児へのサービス

- ・布の絵本
- ・点字雑誌・絵本

④多文化サービス

- ・外国語の絵本、児童書所蔵
- ・外国語のおはなし会
- ・多文化よみきかせ講座(市民館との連携事業)

⑤ヤングアダルトサービス

- ・中学生向け読書100選
- ・10代に突入したあなたへ(小学校高学年～中学生向け新刊案内)
- ・しらべもの相談おたすけ隊(夏休み)
- ・児童・生徒向けパスファインダーの作成
- ・中学生が読むおはなし会開催

2 連携・協力、協働について

連携・協力先別の取組み

①幼稚園・保育園

- ・団体貸出
- ・リサイクル図書配布

②小学校

- ・学校との連携会議
- ・学校(図書館)の課題むけ図書一覧の配布
- ・学校向け団体貸出
- ・図書館見学案内
- ・リサイクル図書配布
- ・図書館で調べ学習
- ・小学生ボランティアの受け入れ
- ・読書週間に学校図書館紹介、児童の作品展示

③中学校

- ・学校との連携会議
- ・図書館で調べ学習
- ・学校向け団体貸出
- ・職場体験
- ・読書週間に学校図書館紹介、生徒の作品展示

④文庫等読書施設

- ・団体貸出

⑤ボランティア

- ・おはなし会の開催
- ・団体貸出
- ・読み聞かせ講座開催
- ・子育てフェスタ等の参加
- ・学校読み聞かせボランティアさんへ本の紹介
- ・講習等への講師派遣
- ・ボランティア団体の情報交換の場の設定

⑥子育て施設

- ・子育てグループへの講座へ講師として参加
- ・読み聞かせ講座開催
- ・子育てネットワーク会議への参加
- ・各区子育てのフェスタ等への参加

※図書館でのおはなし会は何らかの形で全館で実施しているが、職員が読む場合とボランティアが読む場合、ともに読む場合がある。準備や広報のみ職員が行う場合、場所の提供のみで内容には関与しない場合もあるなど、館や行事規模で運営方法が異なっている。

※※川崎市立図書館の連携行事等についてはホームページ「川崎市図書館活動報告書」参照

(平成20年度の活動については http://www.library.city.kawasaki.jp/pdf/regulations/20jigyuu_jisseki.pdf)

平成20年10月1日

川崎市立図書館協議会
会長 平野 英俊 様

川崎市立中原図書館長 寺内藤雄

川崎としての特色のある図書館のあり方について（諮問）

川崎としての特色のある図書館のあり方について、貴協議会の意見を求めます。

理由

現在、川崎市政は2005（平成17）年3月に策定した新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」を基に展開しており、計画の基本構想には次のような「まちづくりの基本方向」が示されています。

協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる

川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する

自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる

一方、川崎市教育計画である「かわさき教育プラン」では、「共に生き、共に育つ環境を創り、心を育む」「共に学び、楽しみ、活動する生涯学習社会を創る」などを重点施策とし、図書館を総合的な情報センターとして充実させることが示されています。

このような川崎市政の方向性において、川崎市立図書館（以後、「市立図書館」といいます。）はどのような施策を必要とし、どのような活動を行うべきか、貴協議会に意見を求めるものであります。

貴協議会におかれましては、前期、第5期には「市立図書館の運営理念と活動目標」を定め、理念の一つに「川崎としての特色ある図書館」を掲げられました。また、その目標には、地域・郷土資料、行政資料（川崎資料）の専門的図書館、専門的資料・情報をもつ機関や市内の大学との連携などが提示されました。

川崎の歴史資料を読みますと、たとえば竣工400年が近い二ヶ領用水ゆかりの人物として、小泉次大夫、田中休愚、池上幸豊といった人物を知ることができます。かれらは地域で人々の協働を生み出し幕府の施策をも改革した優れたリーダーであり、その事績は現代にも示唆を与えているということがわかります。

市立小学校の4年生は社会科で二ヶ領用水について学ぶそうですが、二ヶ領用水や歴史に限らず、市立学校での川崎に関する取組に、市立図書館はどのようにかかわるとよいのでしょうか。また、たとえば「川崎都民」とか団塊の世代といわれるような人々には、どのようなサービスを提供することが望ましいのでしょうか。

第5期にお示しいただきました他の運営理念や活動目標の関係も含めまして、「川崎としての特色」の観点から広く図書館のあり方や方策を検討しお示しいただくことにより、「川崎市民の図書館」としての活動がより明解で豊かなものになると考えられますので、ここに諮問を行う次第です。

平成 20・21 年度審議経過

年 月 日	会 議 名	会 場	主 な 内 容
平成 20 年 7 月 30 日	平成 20 年度 第 1 回協議会	川崎市多摩市民館 会議室	1. 委嘱状の伝達 2. 会長、副会長の選任 3. 川崎市立図書館の現状について 4. 図書館協議会のこれからの活動について
平成 20 年 10 月 1 日	第 2 回協議会	川崎市中原市民館 会議室	1 報告事項 2 平成 20・21 年度川崎市立図書館協議会に対する諮問事項について
平成 20 年 12 月 10 日	第 3 回協議会	川崎市中原市民館 会議室	1 報告事項 2 平成 20・21 年度の諮問事項「川崎としての特色のある図書館のあり方について」の研究・協議
平成 21 年 3 月 4 日	第 4 回協議会	川崎市立 多摩図書館整理室	1 報告事項 2 平成 20・21 年度の諮問事項「川崎としての特色のある図書館のあり方について」の研究・協議
平成 21 年 6 月 3 日	平成 21 年度 第 1 回協議会	川崎市中原市民館 会議室	1 委嘱状交付 2 報告事項 3 平成 20・21 年度の諮問事項「川崎としての特色のある図書館のあり方について」の研究・協議
平成 21 年 9 月 30 日	第 2 回協議会	川崎市高津市民館 会議室	1 報告事項 2 平成 20・21 年度の諮問事項「川崎としての特色のある図書館のあり方について」の研究・協議
平成 21 年 12 月 16 日	第 3 回協議会	川崎市多摩市民館 会議室	1 報告事項 2 平成 20・21 年度の諮問事項「川崎としての特色のある図書館のあり方について」の研究・協議
平成 22 年 2 月 25 日	編集委員会	川崎市立 中原図書館会議室	1 報告事項 2 平成 20・21 年度の諮問事項「川崎としての特色のある図書館のあり方について」の研究活動報告書編集
平成 22 年 3 月 10 日	第 4 回協議会	川崎市 生涯学習プラザ 会議室	1 報告事項 2 平成 20・21 年度の諮問事項「川崎としての特色のある図書館のあり方について」の研究活動報告書まとめ

平成 20・21 年度川崎市立図書館協議会委員名簿

氏 名	役 職 名	備 考
齋藤 多美子	川崎市立南百合丘小学校校長	
古屋 隆	川崎市立御幸中学校校長	平成 21 年 5 月 31 日まで
高野 茂	川崎市立平中学校校長	平成 21 年 6 月 1 日から
関 昭三 ○	川崎市総合文化団体連絡会理事	
水品 美香	川崎市 PTA 連絡協議会前副会長	
松木 智代	麻生区小学校図書ボランティア 勉強会世話人	
伊藤 良久	公募委員	
水谷 宏	公募委員	
平野 英俊 ◎	日本大学文理学部教授	
佐藤 涼子	NPO 図書館の学校元理事	
長島 保	かわさき市民アカデミー副学長	

◎会長 ○副会長

[任期 平成 20 年(2008 年)6 月 1 日～平成 22 年(2010 年)5 月 31 日]

平成 20・21 年度

川崎市立図書館協議会研究活動報告書

—川崎としての特色のある図書館のあり方について—

平成 22 年（2010 年）5 月 31 日

編集 川崎市立図書館協議会

発行 川崎市立図書館（中原図書館）

TEL 044-722-4932